

第58回神無一族の氾濫

担当 神無七郎

☆今回のお題は「成の改変」。

「成」の規則が今の将棋と異なる異世界の詰将棋を、今回の出題作を通して体験してください。

①協力詰 99手

神無七郎

6	5	4	3	2	1	
					王	一
			王			二
			飛	王		三
						四
						五
				王		六
					王	七
		香	王	王		八
						九

持駒 歩 18

15歩、同玉、35飛、25金、
16歩、14玉、15歩、13玉、
14歩、同玉、34飛、15玉、

16歩、同金上、35飛、14玉、
15歩、同銀、34飛、25玉、
35飛、26玉、27歩、同金寄、
36飛、25玉、26歩、同銀、
35飛、14玉、15歩、同金、
34飛、25玉、35飛、16玉、
17歩、同銀生、36飛、25玉、
26歩、同金上、35飛、14玉、
34飛、15玉、35飛、25金、
16歩、14玉、34飛、24金、
15歩、同玉、35飛、16玉、
36飛、26銀成、17歩、15玉、
35飛、25全、16歩、同玉、
17歩、同馬、36飛、26馬、
17歩、同玉、18歩、同金、
37飛、16玉、17歩、同馬、
36飛、27玉、37飛、26玉、
27歩、16玉、36飛、26馬、
17歩、15玉、16歩、同全、
35飛、14玉、15歩、同金、
34飛、25玉、26歩、同金、
36角、15玉、14飛迄99手。

【協力詰（ばか詰）】先後協力

して最短手数で受方玉を詰める

一乗谷酔象―歩を駆使して金銀の渋滞をこじ開ける倉庫番。18手目15同銀で1筋の、78手目26馬で2筋の4枚縦列が出現するのが印象的。

☆本作は歩を駆使して金銀を入れ替え、18馬を入手するパズルです。謎を解く鍵は26銀。銀のままだと邪魔なので、17に移動して成り、金の性能にして局面を打開します。「成」は「将棋に標準装備された性能変化ルール」なのです。

福原徹彦―手が途切れなさそうな手を探しながら詰めました。歩18枚という枚数で成立しているのがすごいですね。（48香配置の意味

が気になります。）

☆歩が余ってあれば48香の代わりに攻方32歩で早詰を防げます。この種の作では歩18枚は少なく感じます。

②龍角馬飛協力自玉詰 10手 神無太郎

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 角

53角、64角、17角成、37飛、
同馬、同角成、91飛、92飛、
31飛成、同馬迄10手。

【協力自玉詰（ばか自殺詰）】 先後協力して最短手数で攻

方玉を詰める

【龍角馬飛】成飛が角に、成角が飛の利きとなる

須川卓二―成と不成で駒種が変わるのは目新しい感覚を感じました

☆成ると飛角が入れ替わる将棋版「とりかへばや物語」。

一度成った駒はもう成れないので、飛角を成る時期と場所の選択が重要です。

占魚亭―2枚飛車の形で詰むのは予想通り。なかなか派手な手順。

☆角を飛に変身させる手順にヤマを張れば、初手53角は予想できますが、2手目64

角合は最終手を見据えないと指せません。作意は盤を大きく使って飛角が華麗に飛び回ります。飛と角の変身は計3回。特に2手目の

角合が飛に変身してとどめを刺す構成は見事です。

中澤宣幸―よくこんな面白い

ルール思いつきますね。

☆筆者もこの発想には驚かされました。ルールだけでなく

高い作品だと思います。

③杏玉多玉協力自玉詰 11手 (受先)

伊達悠

6	5	4	3	2	1	
			延			一
						二
						三
						四
						五
						六
						七
				王		八
			飛			九

持駒 銀香

22 香、29 香、19 玉、22 香成、

28 玉、29 香、19 玉、23 香成、

39 飛成、28 銀、同龍迄11手。

【杏玉】成香が玉の性能・玉

属性を持つ

【受先】受方から指し始める

【多玉】攻方または受方が複数の玉（玉属性を持つ駒）

を使用できる。どの玉に対

しても王手放置は禁手。王

手を外せなければ詰み。

☆「杏玉」は成香が玉になるルール。香は合計4枚ある

ので、「多玉」ルールも付加されています。初形には攻

方玉がありませんが、攻方

持駒に香があるので、開き

王手で成香Ⅱ玉を作ること

ができます。ただ、玉が1

枚では詰みません。

中澤宣幸―成香を2枚にすれ

ば王手が防げない。

作者（抜粋）―「攻方のロイ

ヤル属性のポテンシャルを

持つ駒は、初形では「受方

の「駒台に乗っている」を

目指しました。

☆1枚でも王手が外せなけれ

ば詰みとなる「多玉」の性

質を活かし、2枚目の玉を

作るのが正解への鍵。足り

ないもう1枚の香は受方に

提供して貰います。それが

初手22香。これはもちろん限定で、21香だと21香成が

31飛の利きに入る反則となりますし、23香だと2枚目の成香を作れません。

荻原和彦―串刺しする側から

される側へ。香の末路哀し。

☆多玉の代表的手筋は玉の

「両取り」ですが、本作は

「田楽刺し」。王手されてい

るのは23杏ですが、23杏が

逃げると22杏への王手とな

るので受けがありません。

宮田敦史―難しそうだったが

説明文を読みながら考え始

めたらあつという間に解け

た。簡素&明快で非常に良し。

☆ルール名は複雑でも狙いは明快。フェアリーではそんな作も多いので、ややこしそうな作でも一度は考えてみてください。

④成玉夫詰 13手
るかなん

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		龍	と				銀	王	一
			角						二
				飛					三
				銀	王			王	四
						角			五
						王			六
									七
									八
									九

持駒 なし

23 飛成、同玉、33 王成、同玉、
44 角成、23 玉、73 龍、14 玉、
13 龍、25 玉、34 馬、同玉、
24 龍迄13手。

【成玉夫】玉が成ることができ、成ると玉属性を失う。

成玉が取られると相手の持駒にならずに消える

☆将棋を指していて「玉がなければ負けないのに」と思ったことはありませんか？

王手は放置できませんし、自ら相手の利きに飛び込むこともできません。双玉作

ではそれを逆用することもあります。多くの場合、これは大きな足枷となります。「成玉夫」は玉が成るとその足枷が外れるルール。

王様が凡夫になり、自由を得るわけです。歩が成ると

「二歩禁」の枷が外れるのと同様に考えれば良いでしょう。フェアリーチェスにはManという玉と同じ利きを持つ（しかし玉属性はな

い）駒があり、それに「夫」の字を割り当てたのが、このルール名の由来です。

須川卓二―王成は人生で初めて書いたかもしれない。

荻原和彦―邪魔玉消去は新鮮。玉損の猛攻が功を奏す。

☆このルールでは入玉阻止が至上命題。13 飛成、25 玉、

24 龍、16 玉、26 龍だと「17

玉成」という受けがあります。受方玉が消え失せる詰将棋……悪夢としか言いようがありません。

☆しかし「玉成」を活用できるのは攻方も同じです。3手目33 王成が必殺の捨駒。

玉が成ると玉属性を失うので、普通の駒のように捨てることができるのです。こうして44 王を44 馬に置き替えます。

福原徹彦―後半は13 飛成で詰むですね。

☆初手から13 飛成、25 玉、34 王とするのは自玉が相手の利きに入る反則。玉を馬に置き替えておけば、それを

34 地点に捨てて詰むというわけです。

藤沢英紀―捨てられる夫が悲しい。

☆玉が持駒になると色々都合なので、「夫」は取捨てになるルール設定になっています。「夫」は攻防共に強力な駒なので、様々な新手筋が生まれそうですね。

松田一彦―普通詰将棋に近い感覚で解けました。

☆本作は今回最も多くの正解を集めました。普通詰将棋に近いフェアリーは近年ではむしろ貴重です。

⑤と玉多玉協力自玉詰 20手
たくぼん

6	5	4	3	2	1	
				王		一
				角		二
			角			三
						四
						五
						六
						七
						八
						九

持駒 なし

11角成、32玉、22角成、43玉、
21馬寄、32歩、同馬寄、53玉、
54歩、64玉、42馬、65玉、
53歩成、32飛、43馬、55玉、
11馬、22飛打、33馬、同飛
迄20手。

【と玉】成歩が玉の性能・玉
属性を持つ

☆③は成香⇐玉のルールでし
たが、本作は成歩⇐玉とい
うルール。歩は合計18枚あ
るので、「多玉」ルールも
付加されています。③のよ

うに2枚の玉を作るのが正
解でしょうか？

作者―初形2枚から玉と飛2
枚を出現させる作品。

☆正解は1枚。玉の素となる
歩は合駒で得るしかなく、
これを打って成らねばなり
ません。歩成は開き王手で
ないと玉が相手の利きに入
る反則になるので、玉を作
るには手数を要します。③

は開き王手し易い初形に加
え、「受先」だったので複数
の玉を容易に作れました
が、本作で2枚目の玉を作
る余裕はありません。

☆次の問題は玉を作る場所。

詰め易いのは下段ですが、
手数が短いのは中段。どち
らを目指すか迷いますが、
飛を2枚発生させて中段で
詰ますのが正解です。この

詰型が非常に見えにくく、
正解は1名だけでした。

某氏（無解）―18手？と思っ

たら「と玉」を「ロイヤル
と」と勘違いしてました。

☆「と玉」は「と金を詰めよ」

ではなく「玉の性能のと金
を詰めよ」です。もし前者
なら16手で詰みます。

11角成、32玉、22角成、43玉、
21馬寄、32歩、同馬寄、53玉、
54歩、64玉、42馬、65玉、
53歩成、32飛、43馬、64玉
迄16手

☆ルールに関する誤解を生じ

たのは残念ですが、作品自
体は文句なし。角があつた

22・33に飛が発生する初形

と詰上りの対比も鮮やか
で、難解性と様式美が共存
する佳作だと思います。

【総評】

田中孝海―②以下は初めてみ
るルールで学習するのに時
間がかかりそうです。

☆今回はスペースの関係で例
題がなく、①も筆者の想定
以上に難解でした。1題で
も正解できれば自慢して良
いと思います。

【各題の正・誤・無解者数】

①6011②4013③908

④1106⑤1115

【解答成績】（太字5名当選）

【全題正解】須川卓二

【3題】一乗谷酔象、沖永遼

馬、駒井信久、中澤宣幸

【2題】荻原和彦、占魚亭、

福原徹彦、宮田敦史、和田

裕之

【1題】岩本修、田中孝海、

藤沢英紀、松田一彦

【0題またはコメントのみ】

市原誠、鈴木彊、竹園政秀